

双葉町各種支援員の紹介

10月1日から復興庁より支援員として**馬場淳さん**が埼玉支所（産業建設課所屬）に勤務しています。



復興庁からの支援員として埼玉支所に配属となりました馬場淳（ばばあつし）と申します。産業建設課では農業担当として、主に県外で農業を再開された方々の支援を行っております。

私は、20代の後半海外青年協力隊に参加した事がきっかけとなり、その後は農業専門のコンサルタンツ会社に所属し、30数年間、国際協力関連の仕事に携わってきました。年の半分は、アフリカやアジアなどの途上国で過ごす生活をして来ました。そのため、すでに他界した母から「お前は国際協力だなどと、海外を飛び回っているが地元にもかかわいそ

うな人（母親自身の事ですが）がいるのだぞ」と、語られたりしました。

私の出身は相馬市です。震災後、ナミビアから帰国して直ぐに郷里に帰りました。子どもの頃遊んだ海水浴場や友人の家など、津波で跡形もなくなり、強い衝撃を受けました。その衝撃は、干ばつによる飢饉、ダムの崩壊、内乱の惨状などの場面を見慣れた私の目にも、勝るとも劣らないものでした。何か私にもできる事があるのではないかと焦燥感にかられました。しかし、日々の仕事や生活に追われ、いつしかその時の思いも忘れかけていました。

今年春に、下の娘が社会人になったのを機に、会社も退職しました。これからはのんびりしようかと思っていた矢先、復興庁の支援員募集の手紙が来ました。「郷里のために、もう少し働け」と母からのメッセージが届いたような気がし、迷うことなくその日うちに応募しました。

海外での仕事は長く、国内での経験の乏しい私ですが、少しでも故郷の役に立つことができれば、他界した母も親不孝を許してくれるだろうと考えています。

どうぞよろしく願います。

12月2日から双葉町復興支援員として**安谷屋貴子さん**が郡山支所に勤務しています。



12月2日より双葉町復興支援員として双葉町役場郡山支所にて勤務しております安谷屋貴子（あだにやたかこ）と申します。安谷屋は沖縄県に多い姓ですが、私自身は神奈川県生まれ育ちです。

これまで広域通信制高校での教員、ハローワークや人材派遣会社での就職支援員などを経験し、2007年11月から2010年3月までは、郡山市内の広域通信制高校に勤務しておりました。生徒は会津、中通り、浜通り、県内各地から登校していましたので、家庭訪問などで福島県の広さを実感する日々でした。

そのような中で高校生や就職希望者などから、それぞれが抱える悩みを聞いたり、彼ら自身が何かを選択するために必要な情報提供やアドバイスをしたりしてきました。相手の目線、立場で話を聞くこと、自分の

フィルターを通さずに理解することを心がけた経験を活かして、一人でも多くの町民の皆さんからお話を伺いたいと思います。

双葉町は、地震・津波だけでなく原発事故による被害があり、抱える悩みや乗り越えようとしている壁は、十人十色だと先に着任している5人の復興支援員（田村、小林、山根：いわき事務所、小幡、芳門：郡山支所）から聞いています。そのような状況で、皆さんの悩みや不安が少しでも軽くなるよう、精一杯取り組みます。

復興支援員としての仕事は、町民の皆さんと役場間のコミュニケーションを円滑にするパイプ役を担うことや、町民の皆さん同士の交流機会を創るお手伝いをする事です。一つでも多くの交流機会を作り、「ふたばのわ」を広げたいです。復興支援員の職に就くことになり、高校時代の恩師から「日本で一番理不尽な思いを抱えていらつしやるのが双葉町民の皆さんだ。できることは何でもやってこい」と背中を押されました。まずはこの広い福島県内を、フットワーク軽く動き回り、皆さん同士のつながり作り、つながり再生に努めます。

これから、どうぞよろしく願います。